Bellmark Shimbun
# ベルマーク新聞 9月号
発行　公益財団法人 ベルマーク教育助成財団　東京都中央区築地5-4-18　汐留イーストサイドビル7階　〒104-0045　電話 03-5148-7255（代表）　郵便振替口座 00100-7-56035
大阪事務所　大阪市北区中之島2-3-18　朝日新聞大阪本社内　〒530-8211　電話 06-6231-0131　ダイヤルイン 06-6201-8031　ホームページ http://www.bellmark.or.jp/

# 地震、雪崩…災害から身を守るには

## 大阪・郡津小学校で第１回防災科学教室

ベルマーク財団と国立研究開発法人防災科学技術研究所が協力して今年度から実施する「防災科学教室」の第１回が８月30日大阪府交野市立郡津（こうづ）小学校（恒松小百合校長）で開かれ、3、4年生の児童約200人が参加しました。

講師は、防災科研の研究員のDr.ナダレンジャーこと納口恭明（のうぐち・やすあき）さんと、助手の「ナダレンコ」こと鱒優子（もたい・ゆうこ）さん。金髪のかつらにつけひげ、地下足袋姿のナダレンジャーは「不審者ではありません、雪崩（なだれ）の専門家で、こう見えても博士です」と挨拶。どっと笑い声がおきました。

穴のあいたバケツを使って圧縮した空気を飛ばす「突風マシン」、膨らませた長いビニール袋に発泡スチロール粒を入れて雪崩の様子を再現する「ナダレンジャー０号」など、様々な道具が登場します。「災害を起こす自然現象も、ミニチュアにすればおもちゃになります。反対に楽しい実験もスケールが大きくなると災害になるんだよ」

地震時にマンホールのふたが地上に飛び出たりする液状化現象の説明には、ペットボトルで作る「エッキー」を使います。頭の丸いマッピンと砂、水が入っていて、振ってからしばらく置き、ペットボトルの横を軽くはじくと、砂に沈んでいたマッピンが浮き上がってきます。

長さが違う３つの細長いスポンジをビルに見立てた「ゆらゆら」では、地震の際の揺れ具合の違いがわかります。素早く揺らすと一番短いスポンジが揺れ、ゆっくり揺らすと長いスポンジだけが揺れるのを見て、子どもたちはびっくり。「地震の波の違いによって揺れ方が変わるんだよ」

最後に発泡スチロールのブロックを高く積んで、地震でブロックが崩れる様を再現。６月の大阪府北部地震でブロック塀が倒壊し子どもが亡くなった例を挙げて、「みんなも危ないと思ったらすぐ逃げてね」と力を込めました。

45分の授業の中で、ナダレンジャーは何度も繰り返しました。「大災害にあったら守ってくれる人はいません。自分で自分を守れるようになってください」。授業が終わり、素顔に戻った納口さんと鱒さんは、一人ひとりと笑顔でハイタッチ。平井肇教頭先生は「子どもたちが本当に楽しんでいる様子が伝わってきました」と感想を述べました。

郡津小は今年創立50周年。卒業後も校区内に住み、２世代で同小という家庭も多いといいます。昨年度のPTA副会長の林ミドリさんもその一人で「ベルマークは私が子供の頃から集めています」。50周年記念実行委員会・事務局長の山﨑信彦さんは「日頃みんなが頑張って集めているベルマークと一緒に記念になる事ができたらと考え、今回の企画が実現しました」と語りました。

（左上）発泡スチロールが雪崩のように降ってきたら･･･
（左文中）Dr.ナダレンジャーとナダレンコさん
（右上）ブロック落下実験
（右下）最後は素顔でハイタッチ

# 財団と防災科学技術研究所が協定

## 「教室」実施で

ベルマーク教育助成財団（銭谷眞美理事長）は８月９日、国立研究開発法人防災科学技術研究所（林春男理事長）と、「防災科学教室」の実施についての包括連携協定を結びました。財団の銭谷理事長と、防災科研の林理事長が、それぞれ協定書にサインしました。

「防災科学教室」は、防災科研がベルマーク運動参加校に研究者を派遣し、地震や豪雨、雪崩など自然災害の仕組みや危険回避の方法を学びます。防災科研からの提案で、財団の「教育応援隊」の一環として、今年度は全国の10余校で順次開催します。

防災科研の林理事長は「財団とのつながりがもてることは、研究への理解を広げる上でとても効果的」、ベルマーク財団の銭谷理事長は「災害支援の比重が年々大きくなる中、防災の知見を子どもたちに伝えてもらえるのはうれしい」と話しました。

ベルマーク財団の銭谷眞美理事長(左)と防災科研の林春男理事長